

## 令和2年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立鶴岡南高等学校 通信制の課程

学校教育目標	1 計画的な学習を通して、自主性・自立性を養い、実践力を高め、自らの道を切り開くことができる「たくましい力」を身につけさせる。 2 豊かな心を育み、個性の伸長を図りながら、他人と協調していく生活態度を育てる。 3 勤労の意義を理解し、積極的に社会の進展に寄与する態度を育てる。 4 心身の健康管理に努めさせ、自己実現のための強い意志と持続力を培う。
学校運営方針	1 地域の期待に応え、評価と公開に基づく透明性のある学校づくりを推進する。 2 教員一人ひとりが積極的・主体的に学校運営に参画できる組織運営と教職員間の協力体制を構築する。 3 通信制の特色を生かした学習指導や、生徒の多様な能力・適性に応じた指導の充実を図る。 4 教員の研修・研究の機会を積極的に設け、実践的指導力の向上を図る。 5 教職員の倫理観の向上を図るとともに、働き甲斐ややりがいを持って教育に専念できる環境づくりを目指す。 6 県の再編整備計画を受け、令和4年3月の閉課程に向けた準備を進める。

達成度	A	達成
	B	おおむね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

自 己 評 価					学校関係者評価		総 括
項目	具体的方策	取組み状況・分析	達成度	次年度への改善点	意見・要望	評価	
1	・学校運営方針等の共通理解のもと、協力・協働的体制の構築 ・学校運営におけるPDCAのマネジメントサイクルの機能化 ・保護者・地域が期待する教育活動への取り組み	・職員の協力・協働的体制は概ねできている。 ・PDCAサイクルは概ね機能している。 ・閉課程の周知、転学意思確認等、庄総への移転に伴う準備を組織的に進めた。	B	・PDCAサイクルの充実へ努め、校務・業務改善への組織的な取り組み。 ・「つるなん通信」とホームページの有効活用や情報発信について今後も検討を進める。	・生徒の多くが、全日制での学習に馴染めず入学してくるが、その生徒の大半が卒業している。生徒・保護者・地域の期待に応じており、これは本校通信制の成果である。 ・地域との関わり合いをもっと持つべきである。	A	・引き続き閉課程、移転に向けた準備と広報活動を組織的、継続的に進めていく。 ・多様な生徒のニーズに対応した学習に取り組みやすい環境づくりに努め、単位修得率の更なる向上を図る。
2	・個々の生徒の状況に応じた学習指導の工夫 ・学習環境の改善 ・課題や評価の在り方の研究・改善 ・卒業生40名以上、単位修得率40%以上の達成	・個人面接指導、夜間スクーリング等を実施し、生徒の状況に応じたきめ細かな指導を行っている。 ・卒業生数は昨年度より6名増え、目標はあと少しであった。努力賞表彰者数は昨年度より2名増の41名、単位修得率も通年で目標を大幅に上回る55.0%だった。	A	・現行の総学・総探の学びを深化させた地域課題解決のための探究型学習の研究を進める。 ・学びなおしによる基礎学力定着や学習意欲向上の継続的な研究を進める。	・まだ個人面接指導の利用方法がわからない生徒もおり、通信制の仕組みを継続して周知する必要がある。 ・予約なしで参加できる「集中学習会」や「教科の日」をより多く設定できるよう検討願いたい。	A	・生徒会行事や学校行事の意義や重要性を伝えながら、参加しやすい雰囲気づくりを積極的に進め、参加者数と満足度を引き上げる。
3	・生徒会活動、学校行事への参加状況を改善 ・全職員が共通意識を持ったルール、マナーの指導 ・生徒の抱える悩みや取巻(環境)の把握 ・生徒の相談等への適切な対応 ・特別支援教育の推進	・コロナ禍特別活動等の中止や規模縮小を余儀なくされたが内容や形態を工夫し実施できた。 ・生徒の声に耳を傾け、必要に応じ外部機関との連携をはかりながら、適切な支援・指導を行った。 ・特支教育は昨年までの取組を継続するとともに、教員向研修会を実施し特支教育への理解を深めた。	B	・生徒会活動や学校行事の意義を認識させ、継続して参加を呼びかける。 ・全職員が同一基準を持ち、適切な場面でのルール、マナー指導を行う。 ・特別な支援が必要な生徒に対する組織的・系統的な支援の推進を図る。	・集団での活動は協調性、社会性を涵養する上で重要であるため、積極的な参加を促していたきたい。 ・生徒の悩み等の相談しやすい体制づくりと支援を今後も推進していただきたい。	B	・進路のさまざまな情報提供に努めた個別相談やガイダンス等の手立てを継続して講じる。 ・キャリア教育、特に就労支援については外部団体との連携を強化し、社会的自立に向けた職業観・勤労観の育成をねらいとした企業見学、インターシップ等を実践する。
4	・進路達成に向けた生徒一人ひとりの能力の伸長 ・就労支援を含めた組織的なキャリア教育 ・生徒、保護者の面談と適切な助言	・生徒個々に応じた適切な進路指導を行った。 ・コロナ禍、就労支援のためのキャリア教育については、内容や形態を工夫・変更して実施した。 ・進路目標達成に必要な能力の伸長を図るとともに、様々な情報提供を行った。	B	・進路達成に向けたキャリア教育を充実させ、「キャリアパスポート」の効果的な活用法の研究を継続して行う。 ・特別な支援が必要な生徒や社会に出ることに消極的な生徒への支援体制について継続して研究・実践する。	・個々に応じた進路指導がなされており、卒業予定者の進路未定者が減少傾向にあることは指導の成果である。	A	
<b>目 標</b>	・卒業生 40名以上      ・単位修得率 40%以上		<b>達成度</b>	・卒業生 39名(達成率98%)    ・単位修得率 55.0%(達成率 137.5%)			

